

WEP

ウェブ俳句通信

VOL. 99

俳句通信

金子兜太10句「山影」

特別作品25句●鍵和田柚子「夏至の富士」

特集Ⅰ●本井英著「虚子散文の世界へ」を読む

新鮮な問題提起

岡坂静生

虚子における俳句・散文・思想

若岡中正

虚子散文研究の新展開

中岡聡雄

「散文」と「俳句」の融合

森井佳志

虚子の薀い

安玉和子

金子先生が好き

黒川悦子

俳壇復興を期にして

船光かおる

特集Ⅱ●小川美知子著

「言葉の奥へ——岡本胖の俳句」
を読む

師資相承

藤本美和子

立ち話にもならない

大島英昭

結晶させた言葉の世界

木内磨子

山崎千枝子30句「俳諧堂」

神田ひろみ30句「太陰暦」

【精鋭作家競詠20句】

鳥居真里子「水無月の詩」

藤田直子「虎耳草」

鳥井保和「露の玉」

●作友●

下藤清子・加藤耕子・古賀実江・染谷義輝・岸上弘美・森山陽子・
北森清代子・あふ水尾・大橋 剛・米山光郎・杉浦恵子・
谷中隆子・花谷 清・細見直子ほか

●エッセイ●

先人に学ぶ俳句

岸本尚範

俳句とともに

眞下 瑠明

女性俳句を読む

小川美知子

新しい読者のはじめに 岡本胖著

藤田潤子訳十句集「神楽」を読む 出澤あすか

三種敏雄「真詩」考

北川勇吉

俳句草紙

西田冬樹

WEP 俳句通信 99号

特集Ⅰ

本井英著『虚子散文の世界へ』を読む……………49

新鮮な問題提起
虚子における俳句・散文・思想
虚子散文研究の概観
「散文」と「俳句」の融合
虚子の関心
虚子先生が好き
俳壇復帰を境にして

宮坂静生……………50
石川中正……………51
中国義雄……………52
酒井佐恵……………53
児玉和子……………54
黒川悦子……………55
前北かおる……………56
64 62 60 58 56 54 50

特集Ⅱ

小川美知子著『言葉の奥へ——岡本眸の俳句』を読む……………121

師資相承
立ち話にもならない
結晶させた言葉の世界

藤本美知子……………122
大島英昭……………123
木内恵子……………124
128 124 122

金子兜太10句……………22

「山影」……………22

特別作品25句……………24

鍵和田柚子……………24

「夏至の富士」……………24

近作

山崎千枝子30句……………90

「俳諧堂」……………90

神田ひろみ30句……………94

「太陰暦」……………94

COLOR PAGE

信濃の秋……………3

季節の中で暮

宮谷昌代

(宇治市・興聖寺)……………10

書斎にて録

伊藤敬子(愛知県・名古屋市)……………12

ウエップ・ブテット・ギャルリ……………14

雲の旅路

名村早智子

(飛煌・泡立草・がますみの実)……………16

日本の祭り歌

数河獅子

(岐阜県)……………18

季節の名句 茄子の馬……………19



イラスト 田中丸葉子
デザイン 山内峰子
編集 ウェップ編集部

朝霞作家題詠20句

鳥居真里子	「水無月の詩」	111
藤田直子	「虎耳草」	116
鳥井保和	「露の玉」	118

作品16句

田中水桜	小紫	30
下林清子	暮き日の	32
関口泰代	卒寿	34
加藤耕子	新茶	36
須原和男	海峡	38
古賀雪江	北限の	40
染谷秀雄	走り船	42
井上弘美	天の磐船	44

珠玉の7句

遠山陽子	北極熊	67
岩瀬喜代子	花野	68
落合水尾	雪解谷	69
楢 紀代	秋の声	70
大橋 暁	冥面過	71
米山光郎	山桜	72
杉浦恵子	桔梗	73
谷中隆子	六波羅界隈	74
花谷 清	水中花	75
細見道子	道徳	76
広瀬恵美子	水煙	77

近詠7句

小島みつ加	お辞儀して	114
-------	-------	-----

高階よし

安宅智子	産の笛	137
柴田洋郎	農村舞台	138
横川博行	青峰	139
津森延世	海浜	140
渡邊美代子	蓮	141
亀井孝始	国営昭和記念公園	142
森 章	古茶新茶	143
茅根知子	螢火	144
高浦路子	知らない人	145
成田一子	天天	146
	メロン	147

エッセイ

飯田龍太の風景——井伏鱒二 その5	岸本尚毅	28
三橋敏雄(二)——「しだらでん」以降(三)		

飯田龍太の風景——井伏鱒二 その5	井上康明	46
-------------------	------	----

杉田久女	小川美知子	78
------	-------	----

伝統的社会俳句——大野林大と山本健吉(一)	筑紫賢井	86
-----------------------	------	----

「頭が光けてしまひけり」——黒澤あき緒		98
---------------------	--	----

敏雄の春そして夏へ	北川美美	101
-----------	------	-----

京極紀陽の愛弟子?——田丸千穂の世界	酒井佐忠	112
--------------------	------	-----

現代俳句選

WEP俳句通信97号より	市川榮次	131
かつ消え、また、かく結びて	西池冬扇	138

書評

白石正樹第一句集「渡し舟」を読む	倉澤節子	170
------------------	------	-----

句会・吟行

下野の夏をゆく		164
「秋」(一)「風土」(一)「やぶれ草」の7人		
超結社句会 新12番勝負		171
ゲスト 大久保白村・すずき巴里		
三宅やよい・森須 蘭		
(ホスト 星野英士・藤本美和子)		

超結社句会

「四睡会」報⑤		186
「花園句会」報②		187
「エッセーの会」報③		188

結社推薦朝霞作家

西 康	森田孝子・西田 孝	158
安田孝子・宮崎昌雄		
橋本成寛・山本真沙子		
高澤愛子・大澤明子		
田岡美知子・森田孝子		
有賀昌子・神田出美		
ウエップ俳句教室佐々木 孝		
インフォメーション		
編集後記		

金子兜太 10句



かねこ・とうた

大正8年(1919)9月23日・埼玉生まれ

加藤秋村に師事『寒霞』を経て『海程』を創刊主宰
句集に『少年』『遊牧抄』『肉神』『東国抄』『日常』など

著書に『定型の詩法』『わが戦後俳句史』など多数

第5回現代俳句協会賞 受給済章

第11回詩歌文学館賞 第4等旭日賞 第1回現代俳句大賞

第36回舵菊賞 日本芸術院賞

第51回毎日芸術賞 など

現代俳句協会名誉会長 日本芸術院会員

特別作品25句

夏至の富士

鍵和田袖子

梅雨晴れの古代遺跡をめざしけり
二千年の田んぼ広がる子雀よ
古き田に赤米の苗低く植う
遠富士や一と日ひとりの田を植うる
梅雨霽に富士は隠れてつまらぬ田
にはとりが屋根で刻告ぐ夏来たる

弥生時代に鶏がいたという（二句）

特集Ⅰ

本井英著

『虚子散文の世界へ』を読む

虚子散文を改めて評価する、ということとで本誌79号・90号まで連載された本井英氏の力作「虚子散文の世界へ」が、この6月に単行本化されました。この本を7人の俳人に読んでいただきました。



定価 本体2,800円＋税

特集Ⅱ

小川美知子著

『言葉の奥へ』

—岡本眸の俳句』を読む

本誌83号から95号まで連載された小川美知子氏の労作「岡本眸の俳句」が、加筆の上、単行本となりました。この本を3人の俳人に読んでいただきました。



(定価：本体2,700円＋税)



前列左から 三宅やよい、大久保白村、森須蘭
後列右から 星野高士、すずき巴里、藤本美和子

ゲスト 大久保白村・すずき巴里

三宅やよい・森須蘭

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第40回目です。ゲストは「ホトトギス」同人の大久保白村さん、「ろんど」主宰のすずき巴里さん、「船団の会」同人の三宅やよいさん、「祭演」主宰の森須蘭さん、ホストは「玉露」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。

高士 今日が点が割れました。2点句が多いですね。では、始めます。4点句が一つあります。

片陰にゐても追ひ越したがる人

芭蕉客

「片陰」に在るのだからゆつくり涼めばいいのに、それをわざわざ追ひ越したがる人もいるのだな、というところに注目した作者の眼に感心しました。

巴里 「片陰」にいて満足していてもよさそうなんだけれど、現実的にはこういうこともあるなと思いますので、共感いたしました。

美和子 同じような感じです。「片陰」は涼しいですから、歩調をゆるめてゆつくり歩きたいところなんです、その中でも、歩調をゆるめず進んで行くという人は確かにいるな